

九州海外協力協会だより

会長挨拶

ゆみば あきのぶ
弓場 秋信2023年
新春号特定非営利活動法人
九州海外協力協会

2023年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

平素より当会の活動にご理解とご協力を賜り深謝申し上げます。

昨年は、当会や県OB活動の大きな柱の一つでありました協力隊募集説明会事業をJOCA経由でJICAより再受託し、職員の増員や経営基盤の安定化に向けて一步を踏み出す事ができました。また未だコロナ禍では有りますが協力隊事業も、2020年3月の隊員一斉一時帰国から派遣の再開が進み、派遣国や派遣隊員は増加しています。

本年も引続き、JICA九州の事業である、研修員受け入れ、協力隊広報募集、国際協力の広報啓発、市民参加型国際協力等の一部を当会で受託し、九州一円に広がる帰国隊員の協力も仰ぎながら委託に応えてまいります。また地域の活性化や国際化に当会で何が出来るかを常に問いながら貢献する道を探し行動に移してまいります。

結びに会員の皆様にとりまして、本年が希望の持てる素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。



協力隊員は2年間『J』を背負って活動する 事務局長 丸田 隆弘

まるた たかひろ

私は支援する側とされる側という国際NGOに見られる上意下達の援助関係ではなく、協力隊の理念である、途上国の方々と同じ言葉、同じものを食べ、共に泣き、笑い、国造りに奉仕する。私はこの理念に奮い立つほどの勇気と誇りを感じます。古来から日本人のDNAに自然に備わっている考え方ではないでしょうか。

我が国は1965年に「日本青年海外協力隊JOCV」として平和の国際協力をテーマに事業をスタートさせました。もはや他国には頼らない、という自主独立の意味を含め、国の重要な事業として「日本」という冠を付したのだと思います。しかし、どの段階で日本国内では「青年海外協力隊OCV」になり「J」という文字が消されたのでしょうか。先の大戦後、私たちは歴史教育の中で“日本”や“国”という概念を贖罪や謙虚、近隣国への忖度というオブラートに隠してしまったように感じます。

12年前の東日本大震災時の未曾有の被害の中、多くの国からのお見舞いと日本人の行動に対する称賛の声が上がりました。礼儀正しく謙虚、実直で偽りが無い、自然を愛し素晴らしい調和を持って生活をしている極東の国日本、世界が期待し、感銘を受けているのは紛れもなく我々関係者が忘れた「J」、当会も隊員とともにJをしょって活動致します。日本をカッコよく元気に、そして世界に笑顔を

着任のご挨拶



くぼ

久保 (JICA九州)

アーユーボーワン！はじめまして！ 2014年から2016年にスリランカにて

環境教育隊員としてゴミ問題に取り組んでいました久保です！たい肥化技術を普及させていました。先進国、開発途上国を問わず環境問題の解決に興味があり、自然や動物が好きです。当会では、センター訪問を担当します。（裏面へ続く）



着任のご挨拶 ～続き～



(裏面からの続き/久保 JICA九州) 訪問者が、誰かやどこかに対して思いを馳せ、あたたかい気持ちになって帰っていただけるようなプログラムを進めていきます。プライベートな目標は、早くマイファミリーを築きたい！結婚したいです！どなたか是非ともわたしにご紹介くださいね (^ ^)
では、みなさま、これからよろしくお願いいたします！

ひご ともこ
肥後 朋子 (IFC)

ナマステ。2022年12月から鹿児島県国際交流センター(IFC)に勤務しています、肥後朋子(ひご・ともこ)です。当時勤めていた有機農業組合でJICA研修員と話したことをきっかけに、世界へ関心を持つようになりました。見たことのない野菜や果物に出会うととても興奮します。この季節のおススメは、ボンタンアメの原料で知られる鹿児島県阿久根文旦。果肉の美味しさはもちろんですが、何と云っても見た目のインパクト。機会があればぜひご賞味ください。IFCでは事業を担当します。面白そうなワクワクする感覚を一番大切にしたいです。



協力隊員時代の活動写真



西アフリカ・マリ共和国の首都バマコにて

JICA九州 お仕事紹介

Bonjour! 元セネガル 小学校教育隊員の羽生です。JICA九州で、センター訪問・教師国内研修・高校生実体験プログラムを担当しています。今回は、私が奮闘している **教師国内研修** について説明します。

教師国内研修は、教師海外研修の代替でJICA九州×JICA沖縄共同で行っている研修です。期間は2022年6月～2023年1月 全7回の研修に10名の教員が参加しています。今年度はNPO九州が実施団体に計画、実施しています。

私が業務を引き継いだ5月にプランが真っ白で8か月の研修をどう組み立てるか皆で考えたことを思い出します。SDGsをどのように学校教育に入れられるか真剣に悩みました。基本的な研修はzoomですが夏のフィールドワークのみ対面で行いました。研修場所は鹿児島県大隅 当協会のKAPICでした。

2泊3日の研修を前原さんはじめ多くの関係者の力で無事に開催ができ感謝しています。何より、参加教員に大隅の魅力、KAPICの存在を共有できたことが良かったと思います。先生や生徒にとって良ききっかけとなる研修をこれから作りしたいと思います。



KAPICで大人気講座「水ワークショップ」を体験する先生方

50か国以上のJICA研修員との国際交流プログラムを実施しました！

こんにちは、原口純一です。私は、海外から来日している「**JICA研修員との国際交流プログラム**」と学校教員向けの「**開発教育指導者研修**」を主に担当しています。そのなかでも、国際交流プログラムについてご紹介します。

今年度、約9ヶ月の間にアジア、アフリカ、中南米など50か国を超える途上国のJICA研修員と日本人とが交流するプログラムを行ってきました。どなたでも参加可能な「公開型」は毎月2回ずつ、「学校・団体型」は25回以上実施しました。

海外からの研修員の皆さんは、母国の紹介や日本の印象について写真や動画を用いて、情熱を持って分かりやすく話してくださいました。交流を行った学校の生徒さんからは「世界と比較することで、日本の素晴らしさが分かった」「海外の方と話せるように、もっと英語を勉強しようと思った」など嬉しい感想をいただきました。今年度の交流はすべてオンラインでの実施となりましたが、参加者の満足度は高いものでした。来年度は、対面での交流が実施できることを願っています。

平和な社会を実現するためには、まずお互いの国や相手のことを知ることから始まると考えております。「日本にはもっと世界のことを、世界にはもっと日本のことを知ってほしい」。このような思いで、世界と日本の架け橋となり取り組んでいます。この国際交流プログラムがそのきっかけになれば嬉しいです。



日本の学生と交流を行ったJICA研修員



サラマッシアン！（こんにちは！）元インドネシア隊員の中ノ瀬です。JICA九州の国際理解教育のうち、**出前講座・センター訪問・館内展示**を担当しています。

センター訪問では福岡県内はもちろん、修学旅行で県外からお越しになられた学生さんたちもいらっしゃいました。SDGs学習の一端として訪問される方も多く、教育現場をはじめ社会でSDGsが注目を集めていることを感じています。訪問される方には世界の国の現状や課題等を身近に感じ考えてもらえるよう努めています。

協力隊経験者等を講師として学校等へ派遣し、協力隊体験談等をお話する出前講座では、多くの方に「協力隊経験者の実体験に基づいた話は“ジブンゴト”としてモノゴトを考える上でとても良かった」などの感想を多くいただいています。年間を通じて講座申込は受け付けておりますので、お近くに出前講座に関心のある方いらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

写真上下：センター訪問の様子



JICA海外協力隊 2022年募集説明会を終えて 中本 勝也

指先ひとつで自分に必要な情報を簡単に手に入れられる世の中ですので、募集説明会に参加せずとも応募は可能ですし、最新の情報を得るにはオンライン説明会でも事足ります。このような状況の中で、会場型の説明会を行う意義はどこにあるのか。

3年ぶりの会場型募集説明会は、春と秋を通して240名の参加者でした。多いか少ないかという話の前に、わざわざ来場して下さったことをありがたく感じています。来場してまで得たい情報をきちんと提供できていたのか不安はかなりありましたが、「1回目の応募で落ちて、また応募するかどうか迷っていたが、迷いが晴れた。」、「スタッフの皆さまがとても丁寧に温かく親身になってご対応いただけたことが有り難く感じました。また経験されたこととお話される表情が生き生きとされており、皆さまのお人柄にも感動いたしました。このような機会を設けていただけたこと感謝いたします」このようなありがたいコメントをたくさん頂きました。とてもありがたいですし、会場型説明会の意義はこのコメントの中にあると思っています。

会場型募集説明会参加日が、隊員活動0日目となるよう来春も楽しみながら開催します。



JICA海外協力隊セミナーを実施しています！ 赤司 周平

当会ではJICA海外協力隊の募集広報業務をJICAより受託して実施しております。

その一環で、将来のJICA海外協力隊への応募関心層を形成するために九州圏の大学や専門学校の学生を対象に協力隊OVの体験談発表を行う「JICA海外協力隊セミナー」を実施しております。

参加いただいた学生については、協力隊経験者の体験談を通して、世界を身近に感じていただき海外への関心を高めていただけたらありがたいです。興味を持たれた方には、これまでの学業で学んだことやこれから身につけていくであろう技術や経験を生かしてJICA海外協力隊に参加いただけたら幸いです。今すぐでなくても、将来の選択肢の一つとして、JICA海外協力隊員として海外で活躍し、世界と日本をつなげる一助となればこれほどうれしいことはありません。JICA海外協力隊を目指す方を応援しています！



(特活)九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動にご賛同いただける団体・個人の皆様に募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより(本紙)」をお送りさせていただきます。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい！

発行: 特定非営利活動法人 九州海外協力協会

〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503

TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304

HP: <http://www.npo-kyushu.or.jp/> E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



新春の青空！



福岡市西区の愛宕神社からの景色。すっきりと晴れていて澄んだ空気が伝わってくるようです。この景色を眺めながら、混乱の世の中が少しでもいい方向に向かうよう祈るばかりです。#愛宕神社 #青空

